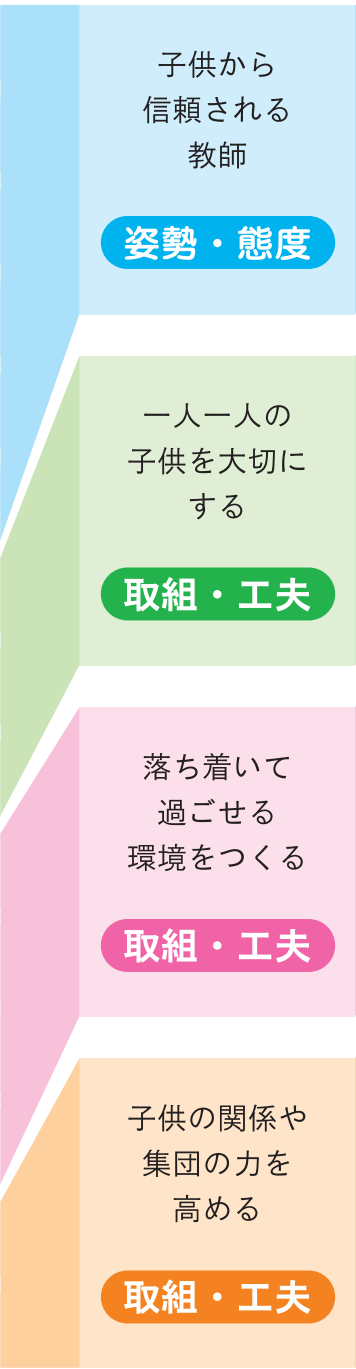


学級経営リフレクションシート（第1版）

視点① 安心・安全な学級づくりに向けて
主に教師と子供の間に関すること【安全】段階

No. 1	子供の話に耳を傾け、寄り添って気持ちを理解しようとしているか。
2	場当たりの指導を行わないよう、褒めたり、指導したりする際の原則となる判断基準をもっているか。
3	子供の成長を第一とするために、アンガーマネジメントに努めているか。
4	いじめや安全に関わる行動・発言に対して、毅然と指導しているか。
5	行動や発言は子供の範となるように振舞っているか。
6	保護者とのつながりを大切に、子供の気になる点や課題だけでなく、よさを共有するなどして定期的な連携に努めているか。
7	子供の最新の実態を把握するために、見る・話す・聞く・調べる・行動を共にする等、様々な方法で情報を集めているか。
8	問題行動等に対しては、人格を否定することなく「行為」を指導しているか。
9	当番や係活動、班活動等、学級における役割を一人一人の子供に持たせているか。
10	教師の話に対して、子供が聞く状態になっているか、話を理解しているかを確認しながらコミュニケーションを取っているか。
11	「いいね」「すごいね」など、子供の間に前向きな発言や反応が増えるように教師の声掛けを工夫しているか。
12	整理整頓や清掃、掲示物の更新等により、学びに向かえる教室環境を整えているか。
13	UD（ユニバーサル・デザイン）の視点を取り入れ、どの子供にとっても過ごしやすい教室環境づくりに努めているか。
14	挨拶や返事、相手を見て話を聞くことなど、対人関係を良好にするための取組をしているか。
15	子供の望ましい行動を取り上げ、学級全体の行動に反映させようとしているか。



視点② 主体的・協働的な学級づくりに向けて
主に、子供同士の関係、集団に関すること【交流】【承認】段階

No. 16	現在の実態を踏まえて目指すべき学級の姿や目標を見据え、その達成に向けて計画的・段階的に指導しているか。
17	教師自身が自己開示に努め、弱みも含めて一人の人としての姿を子供たちに見せているか。
18	指導をした後は、改善の様子を見取るとともに、必要なフォローをしているか。
19	個々の子供の伸びや変容を捉え、そのことを具体的かつタイムリーに伝えているか。
20	特定の子供だけでなく、多くの子供が意見を述べたり、活躍したりできるようにしているか。
21	「困った子」は「困っている子」であることを理解し、行動の背景を探り、環境を変えたり支援の引き出しを増やしたりすることなどの対応を行っているか。
22	話を端的にする・わかりやすくする・子供の意欲や必要感を引き出そうとする等、子供への伝え方を工夫しているか。
23	子供の小さな変化やサインを見逃さないよう、注意深く子供や子供同士の関係を見ながら、必要な支援をしているか。
24	間違いや誤った意見も大切に扱い、子供たちが意見を述べやすい雰囲気づくりをしているか。
25	目指すべき学級の姿や目標を子供と共有し、形骸化することなく様々な場面で生かしたり、振り返ったりしているか。
26	子供同士の間で自己開示や他者理解をしたり、相互に認め合ったりする活動を取り入れているか。
27	教師が介入しない方が子供の自律性を高める場合もあることを理解し、状況に応じて子供に考えさせたり、委ねたりしながら、その様子を見取っているか。
28	子供同士が折り合いを付けたり、納得解を導き出したりできるように、集団におけるよりよい意思決定の仕方を指導しているか。
29	ルールやきまり等を決める際は、子供たちの意見を取り入れたり、話し合わせたりして、子供自身が自己決定したと感じられるようにしているか。
30	子供の発意・発想を生かした活動を支援し、子供たち自身が学級文化を創り出せるようにしているか。

資料名	対応する項目(上段)	内容	対応QRコード
戸田市 指導の重点・主な施策 バックナンバー	H30	12 13 P.11 教室・授業のUD化	①
	R2	21 P.11 児童生徒の「気になる行動」へのアプローチ	②
	R3	20 22 P.3 わかりやすい指示出しや発問 P.4 「つなげる」授業づくり	③
その他		11 14 P.10 ポジティブな行動支援(PBS)	
	R4	文部科学省 生徒指導提要	④
	R4	教職員支援機構 基礎的研修シリーズ 学級づくりに関する研修動画 ※R6.4月時点 小学校版のみ	⑤
	H30	みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動【小学校編】	⑥
	R5	国立教育政策研究所 学校文化を創る特別活動【中学校・高等学校編】	⑦



活用上の留意点

No.1～30の取組等が学級経営のすべてではありません。また、取組の実際は、子供の発達段階や実態に応じて異なります。

しかし、2つの視点と4つのテーマはすべての学級に共通することです。まずは、リフレクションを通して、「動き出す（＝同僚に聞く・事例を調べる等して実践する）」ことが大切です。

授業改善も学級経営とは不可分です。また、視点2を経て「自己実現」段階（前ページ参照）を目指すためには、よりよい学びの存在が不可欠でしょう。授業改善に向けては、P.3の「アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック」とともにP.4の関係資料や過去の「指導の重点・主な施策」が参考になります。